ISSN 0919-7850

名大トピックス
NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.285

2017年2月

第９回高等研究院レクチャーを開催

名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

http://www.nagoya-u.ac.jp/

名大トピックス No. 285

目次

●ニュース
第９回高等研究院レクチャーを開催 3
第２回教育基盤連携本部セミナーを開催 4
様々な疾患及び障がいのある学生のための就職ガイダンスを開催 4
重要文化財馬場家住宅研究センター研究交流会を開催 5
キャンパスクリーンウィークを実施 5
職員の国際化に係るワークショップを開催 6
キャンパスコンサートを開催 6
トークイベント「シルク・ドゥ・ソレイユの魅力」を開催 7
大学入試センター試験が実施される 7
●知の先端
DNA 損傷を受け入れて生きていく仕組み 8
益谷　央豪（環境医学研究所教授）
●知の未来へ
中国都市部における「学区制」政策に関する社会学的分析 10
劉　靖（大学院国際開発研究科助教）
●学生の元気
平成28年度名古屋大学体育会会長表彰　表彰式 11
●部局ニュース
第４回 ITbM 国際シンポジウムを開催 12
第15回坂田・早川記念レクチャーを開催 13
第９回おもしろ科学教室を開催 13
都市の木質化講座を開催 14
東山キャンパスで企画展「戦争と大学 ふたたび」を開催 14
ICCAE 第５回オープンセミナーを開催 15
第３回素粒子宇宙起源研究機構国際会議（KMI2017）を開催 15
●名大を表敬訪問された方々 16
●新たに締結した学術交流協定 16
●構成員を対象とした研修 17
● INFORMATION
平成28年度定年退職教授等の最終講義日程 18
●本学関係の新聞記事掲載一覧　平成28年12月16日～平成29年１月15日 19
●イベントカレンダー 21
●表紙サークル紹介 23
●ちょっと名大史
環境医学研究所 ― 附置研究所の歴史① ― 24

第９回高等研究院レクチャーを開催

1 安藤教授による講演
2 記念撮影
3 黄教授による基調講演

第９回高等研究院レクチャー「東アジア思想交流史の課題」が、12月16日（金）、野依記念学術交流館カンファレンスホールにおいて、本学教職員、学生や一般の方々など約70名の参加を得て開催されました。

東アジア圏は、広い意味での儒教文化圏としての緊密な関係を持つ中で、多様な近代化を進めてきました。東アジア圏のそれぞれの地域での、個性的な儒教思想と西欧近代思想との対立と葛藤との融合をめぐるドラマが、東アジアの近代と現代を大きく規定してきたと言えます。グローバル化の進展の中で、東アジア圏の文化・思想交流について考えることが、ますます大切になっています。そのためには、目まぐるしく動くみかけの現象に惑わされることなく、歴史と伝統に尋ね、儒教文化圏としての東アジア思想圏の特質や文化的蓄積をしっかり確認することが必要です。高等研究院は、数年来、アジア圏の複数の大学所属高等研究院との間で、「東アジアの思想交流」を主題に共同研究を重ねてきました。今回の高等研究院レクチャーの狙いは、黄 俊傑国立台湾大学講座教授・同大学人文社会高等研究院長を講師として招き、「東アジア思想交流史」を問い直しながら、東アジア圏の文化と思想の将来像を展望することにあります。

レクチャーでは、まず、前高等研究院長の安藤隆穂中部大学教授が、高等研究院が進めている「東アジア思想交流史」を主題に、国立台湾大学人文社会高等研究院との共同研究の軌跡を振り返りながら、東アジア圏の文化的蓄積を再確認する意義を紹介しました。続いて、川尻文彦愛知県立大学准教授が、「東アジア思想交流史の方法と課題：東アジア・儒学・近代」と題して、儒学を東アジアという場において、テキストとコンテキストの二つのキーワードから読み解くという東アジア思想交流史の方法と課題について分かりやすく解説しました。次に、區 建英新潟国際情報大学教授が、「日本の洋学者と儒学精神」と題し、福澤諭吉の「他者感覚」と「独立自尊」の思想における儒学による影響を明らかにしました。引き続き、辻本雅史国立台湾大学教授が「知の伝達メディアと思想交流」と題して、メディアの視点から思想史研究を考察し、思想史研究における「知の伝達メディア」という視角の有効性を明らかにしました。最後に、「東アジア儒学」の研究で国際的にも高名な黄教授が、「『東アジア儒学』の視野とその方法論の問題」と題して、基調講演を行い、「東アジア儒学」研究の展開を回顧した上、新たな研究領域としての「東アジア儒学」が持つ可能性について面白く講演しました。講演後には、活発な質疑応答が行われ、熱気溢れるレクチャーとなりました。

第2回教育基盤連携本部セミナーを開催

第２回教育基盤連携本部セミナーが、12月７日（水）、野依記念学術交流館カンファレンスホールにおいて開催され、全国各地から130名を超える大学関係者等が参加しました。

第２回目となる今回のセミナーは、テーマを「教学 IR と質保証」とし、松尾総長のあいさつのあと、浅野　茂山形大学学術研究院教授から「大学における IR と質保証の現状と今後の展望」、福島真司大正大学地域創生学部教授からは「大学マネジメントにおける IR の実質化と組織文化の醸成」というテーマでそれぞれ講演していただきました。

質問に対応する浅野教授

実践例や IR システムの操作デモを交えた講演に、参加者は熱心に耳を傾けました。また、講演後の質疑応答では参加者との活発な意見交換が行われました。

最後に、松下教育基盤連携本部長から、講師へのお礼とまとめのあいさつがあり、セミナーは盛況のうちに終了しました。

様々な疾患及び障がいのある学生のための就職ガイダンスを開催

様々な疾患及び障がいのある学生のための就職ガイダンスが、12月９日（金）、ナショナルイノベーションコンプレックス３階大会議室において開催されました。

まず、障害者向けの合同企業説明会も開催している株式会社ジェイ・ブロード・クローバー事業部原田佳奈子氏による講演では、「障害者手帳の取得は就職活動にメリットをもたらす。就職の可能性を増やすことができるし、就職活動時や就職後に必要な配慮をスムーズに受けることができるようになる。就職活動では、必要な配慮に関する資料を用意し、障害の程度を数値で説明すると良い」といった具体的なアドバイスがありました。

講演する原田佳奈子氏

船津静代学生相談総合センター助教（就職相談員）は本学卒業生の事例を紹介し、「就職活動開始後に障害者手帳を取る、障害者枠と一般枠両方に応募をする、障害者手帳を持ちつつ一般枠で就職を目指す、学生によって就職活動の方法は様々。就職相談部門では一人ひとりの状況に合わせたアドバイスをしているので、少しでも気がかりなことがあれば相談をして欲しい」と語りました。

当日は学生に加えて教職員や外部機関の方々の参加があり、関心の高さが伺われました。終了後には、講演者に声を掛けて積極的に質問をする学生の姿も見受けられました。ガイダンスは、自己や障害をより深く理解する機会にもなります。今後も、就職支援室及び学生相談総合センターは障害学生の就職に関する情報の提供を行っていきます。

重要文化財馬場家住宅研究センター研究交流会を開催

平成28年度研究交流会「専門家が語る馬場家住宅の魅力－重要文化財指定20周年を記念して－」が、12月10日（土）、長野県松本市にある松本市立博物館分館重要文化財馬場家住宅において開催されました。当日は、馬場家住宅が本棟造の典型例として国の重要文化財指定を受けた平成８年12月10日からちょうど20周年にあたりました。

馬場家住宅の土間に客席を作って行った囲炉裏端談義

そこで、重要文化財指定のための調査に携わった吉澤政己信州伝統的建造物保存技術研究会副理事長を招き、本棟造の特徴や当時の調査にまつわる話題を紹介していただきました。現在の建物は、緩い大きな屋根と左右対称の２階出窓が作る正面が本棟造の典型例として紹介されています。しかし、吉澤理事長が行った調査の結果、この正面は竣工時のものではなく、明治時代になってからの改造によってできたものであることが判明しました。

また、当センター教員である堀田典裕工学研究科助教は、「〈再考〉馬場家住宅」と題する研究報告を行いました。堀田助教は、明治28年の家相図に関する形態分析と、今年度行った庭園実測調査の結果を比較し、馬場家住宅の〈建物－庭園－風景〉の間に見られる空間の囲繞構造について解説しました。

その後、講演者のお二人、松本市立博物館馬場家住宅の大島　浩学芸員とセンター教員、さらに建築史の専門家である上野勝久氏を交えてパネルディスカッション「囲炉裏端談義—馬場家住宅の魅力」を行いました。当日は、関係者を含め50名の参加者があり、馬場家住宅の土間に並べた椅子席が満席になる大盛会でした。

キャンパスクリーンウィークを実施

大学構内環境美化運動「キャンパスクリーンウィーク」が、12月12日（月）から16日（金）まで、全学の教職員及び学生の協力を得て実施されました。

これは、環境保全に対する関心を高めるために、６月と12月の環境月間に平成元年から年２回実施しているものです。

事務局２号館前に集合する参加者

本部事務局では14日（水）の午後、竹下事務局長を先頭に150名余りの参加者が、東山キャンパス構内及び周辺の市道等において、各部署それぞれが担当する持ち場を中心に、空き缶、紙くず、可燃・不燃ごみ、不要なビラの撤去等の清掃や回収作業を協力し合って行いました。

この日は、前日から降り続いていた雨が夜半には上がり、空はすっきりと晴れ渡っていましたが、代わりに冬型の気圧配置が強まり気温が一段と下がったため、参加者は、落ち葉をあちこちで大きく舞い上げる木枯らしや、身にしみる寒さに耐えながら、各々手に掃除道具を持ち、たくさんのゴミを懸命に回収していました。

本学では、今後も年２回のキャンパスクリーン（屋外清掃）を実施し、「ゴミのないきれいなキャンパス」を目指していきます。

職員の国際化に係るワークショップを開催

職員の国際化に係るワークショップが、12月16日（金）、理学南館セミナー室において開催されました。４大学連携スキームの構成大学（本学・岐阜大学・三重大学・愛知教育大学）を中心とし、金沢大学、静岡大学、豊橋技術科学大学、名古屋工業大学、愛知県立大学及び核融合科学研究所から、人事及び国際業務に従事している職員約40名が参加しました。

全体討論の様子

近年、大学のグローバル化が加速的に進み、教員とともに職員の国際化が求められています。外国人教員の増加や海外拠点の設置等に伴い、教務系のみならず、人事や会計業務においても語学力や異文化理解の必要性が重要視されるようになった背景から、本ワークショップの開催に至りました。

はじめに、三枝教育推進部長のあいさつがあり、大学の主要な柱のひとつである教育について「日本人学生等国内に係る業務は学務部」「外国人留学生等国際関係業務は国際部」という従来の分担から、「国際」を特定の部署で管轄するものでなく定例業務として遂行するために「教育推進部」を発足した経緯が紹介されました。続いて、各参加大学は各機関における語学力や国際マインドを持つ人材育成のための研修及び組織作り等の取り組みを発表しました。全体討議では、課題を共有し、解決に向け活発な議論が交わされました。これまで連携の少なかった人事系と国際系、また大学間の貴重なネットワーク構築の場となったとともに、今後の更なる連携に向け二回目の開催も決定し、充実したワークショップとなりました。

キャンパスコンサートを開催

本学及び愛知県立芸術大学の共催によるキャンパスコンサートが、12月22日（木）、豊田講堂において開催されました。このコンサートは、愛知県立芸術大学と連携して、年２回程度開催しており、今回で７回目となります。

当日は、愛知県立芸術大学大学院生の高島美穂さんと天野初菜さんによるピアノ演奏が披露され、あいにくの雨の中、約350名が来場しました。

演奏の様子

チャイコフスキーの「くるみ割り人形より（プレトニョフ編）」の軽やかな調べで幕を開け、ショパンの「バラード第１番作品23」、ラフマニノフの「ピアノソナタ第２番変ロ短調作品36より」とピアノのソロ演奏が続きました。

クライスラーの「愛の喜び」は誰もが知っている優しい音色が奏でられ、続く、ムソルグスキーの「組曲“展覧会の絵”よりキエフの大門」はテレビ番組の挿入曲としても耳に馴染んでいる曲でした。

最後は、スメタナの「連作交響詩“わが祖国”よりモルダウ」をピアノの連弾で演奏しました。演奏前には練習の裏話なども披露され、会場は和やかなムードに包まれました。

アンコールでは、奏者の２人がサンタクロースの帽子をかぶり、この時期にぴったりなクリスマスメドレーを披露しました。手拍子のリズムに会場も一体となり、予定時刻を過ぎるほどの盛り上がりで幕を閉じました。

次回は７月31日（月）に開催されます。

トークイベント「シルク・ドゥ・ソレイユの魅力」を開催

本学及び在名古屋カナダ領事館の連携企画トークイベント「シルク・ドゥ・ソレイユの魅力」が、１月11日（水）、豊田講堂において開催されました。これまで、本学とカナダ領事館とは強いつながりがあり、日頃から本学の国際化にも多大な協力をいただいていることから、トークイベントの開催に至りました。

対談する出演者

松尾総長のあいさつの後、本学の大学院法学研究科修了生であるシェニエ・ラサール領事は「豊田講堂ホールは名古屋大学での学生時代を思い出し、ただいまの気持ちです」と日本語であいさつし、和やかな空気で始まりました。

シルク・ドゥ・ソレイユとは、1984年にカナダで設立されたエンターテイメント集団で、世界50カ国以上から約4,000名のトップクラスのアーティストで構成されています。当日は、その中でアーティスティック・ディレクターとして活躍されているカナダ人女性のニーランティ・ヴァディヴェル氏と「トーテム」で日本人アーティストの一人として出演されている宮　海彦氏による講演とともに、星野幸代国際言語文化研究科教授を交えた対談も行われました。司会の町田　健文学研究科教授からは、事前に参加者から寄せられた質問が紹介され、世界を舞台に他の国々の人と仕事をするには、自分自身を知り、多様性を受け入れることが大切であること、芸術家としてパフォーマンスを披露する際の心得などが話されました。

約250名の来場者は、紹介動画や生の出演者の声に「シルク・ドゥ・ソレイユの魅力」を満喫していました。

大学入試センター試験が実施される

−本学関係会場で約7,100名が受験−

平成29年度大学入試センター試験が、１月14日（土）、15日（日）の２日間実施され、本学関係会場では、東山キャンパス及び学外の高等学校６校の計７会場において、約7,100名が受験しました。今年度の全国の志願者数は、前年度より12,199名多い575,967名となりました。

今年度は、両日とも雪に見舞われることとなり、受験生の会場までの動線等を確保するため、本学職員が、早朝から、適宜、除雪作業を行いました。特に試験二日目は、愛知県内でも、試験場単位で開始時刻を繰り下げて実施した会場もありましたが、本学が担当する会場では、全て定刻による実施となりました。

試験に臨む受験者

両日とも、例年と同様に午前８時頃から受験生が集まり始め、会場へと足を運んでいました。東山キャンパスでは、地下鉄出口付近において、雪の中、高校の教員等から激励を受け、健闘を誓う受験生の姿が数多く見られました。受験生は、８時30分の入室開始と同時に、次々と試験室へ入室し、試験に挑みました。

また、松尾総長が各試験場を訪問し、担当する教職員に労いの言葉をかけました。

なお、本学の個別学力検査前期日程試験は、２月25日（土）から27日（月）にかけて、また、後期日程試験（医学部医学科）については、３月12日（日）にそれぞれ実施されます。

知の先端

DNA 損傷を受け入れて生きていく仕組み

益谷　央豪　環境医学研究所教授

DNA は、日光紫外線や化学物質などの環境要因や、活性酸素などの細胞自身の代謝産物により容易に損傷を受けます。地球上で生命活動を営む限り、次々と DNA 損傷が生じてしまっているのです。DNA 損傷は、細胞の増殖や生存に必須の基本的な DNA 代謝反応を妨げて、遺伝子変異や染色体異常を引き起こす重大な要因であり、ひいてはがん化や老化をはじめとした様々な生理機能の異常をもたらします。2015年のノーベル化学賞は、DNA 修復機構の研究に授与されました。大腸菌からヒトに至るまで、生物は、様々な DNA 損傷を修復するための複数の機構を備えており、DNA 損傷による異常を未然に防いでいます。しかし、次々と生じ続ける DNA 損傷の全てを完全に修復することはたいへん難しいであろうことは容易に想像できます。私の研究室では、近年明らかになり始めた、未修復の DNA 損傷を寛容して DNA を複製する仕組み（DNA 損傷トレランス（DNA damage tolerance）と総称されます）について研究しています。

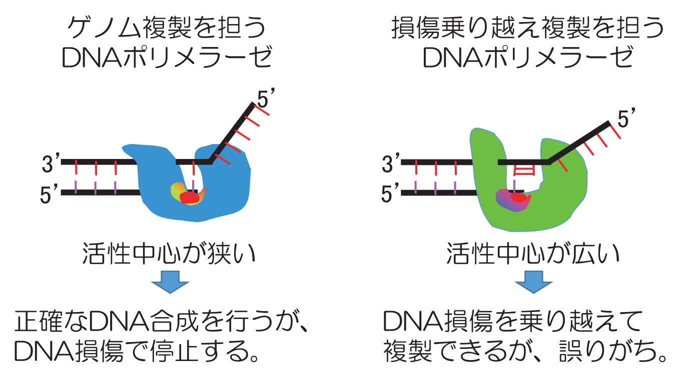


図１　正確なゲノム複製と損傷乗り越え複製を担う DNA ポリメラーゼ

損傷乗り越え DNA 複製機構（translesion DNA synthesis）を欠損する高発がん性遺伝疾患

色素性乾皮症（XP: xeroderma pigmentosum）は、日光過敏症状と高頻度発がんなどを特徴とする常染色体性の劣性遺伝疾患です。XP は、それぞれ異なる遺伝子に原因がある８つの群（XP-A〜XP-G と XP-V（バリアント））に分類されています。XP-A〜XP-G 群では、ヌクレオチド除去修復機構に関わる遺伝子に異常があり、紫外線照射により生じる DNA 損傷を修復できないために、日光過敏症状や皮膚がんの発症に至ると考えられます。ところが、XP-V 群患者では、ヌクレオチド除去修復に異常は認められません。私たちは、XP-V 群患者では、紫外線 DNA 損傷を鋳型として DNA 合成を行える特殊な DNA ポリメラーゼ（DNA ポリメラーゼ・イータ（Polη））が欠損していることを明らかにしました。ゲノム DNA の正確な複製を担う DNA ポリメラーゼは、鋳型 DNA 上に損傷があると DNA 合成を行うことができずに停止してしまいますが、健常人では、Polη が代わって損傷乗り越え DNA 複製を担うことにより、ゲノムの安定性を維持し、発がんの防御に重要な役割を担っているのです。

損傷乗り越え複製は諸刃の剣

Polη は紫外線 DNA 損傷にフィットする広い活性中心構造を持ち、正確な損傷乗り越え複製を担うことができます。しかし、損傷の無い DNA に対しては、その構造はルーズで、誤りがちな DNA 合成を行ってしまいます（図１）。Polη は、誤りがちな DNA ポリ

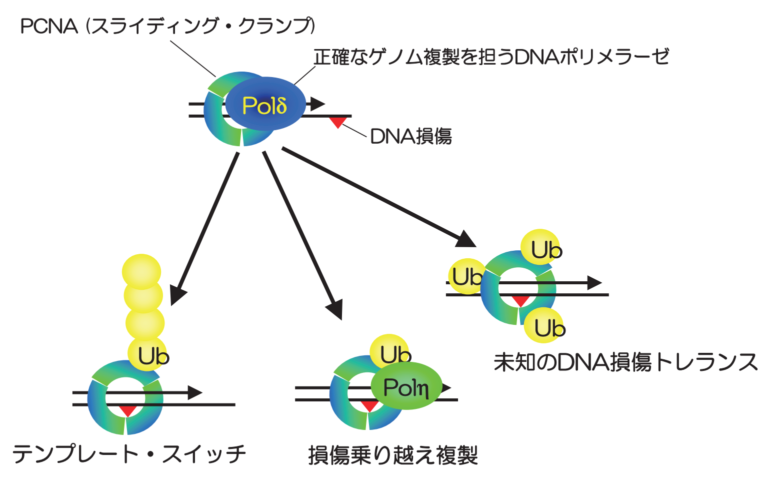


図２　タンパク質の翻訳後修飾による DNA 損傷トレランスの制御

メラーゼとして、免疫応答において、活性化されたＢ細胞の免疫グロブリン遺伝子の多様化の過程で起こるゲノムの変異（体細胞超突然変異）の生成に寄与します。

今日までに、ヒト細胞は、少なくとも15個の DNA ポリメラーゼを有していることが明らかになっています。Polη を含めて４つの類似の構造を持つ類縁の酵素をはじめとして、損傷乗り越え複製に関わるものが複数存在します。これらは、全て本質的には誤りがちな DNA ポリメラーゼであり、使い方によっては、ゲノムの変異を引き起こし、がん化を促す諸刃の剣となります。

DNA 損傷トレランス研究の今後の展望

ヒト細胞の損傷乗り越え複製の制御においては、タンパク質の翻訳後修飾によるタンパク質間相互作用の制御が重要な役割を担うと考えられています。特に、DNA ポリメラーゼを DNA 上に繋ぎ止めるスライディング・クランプである PCNA（proliferating cell nuclear antigen：増殖細胞核抗原）の特定のリジン残基のモノユビキチン化は、Polη の活性化を促します（図２）。一方で、ポリユビキチン化（K63-linked）により、テンプレートスイッチと呼ばれる DNA 損傷トレランス経路が活性化されると考えられています。また、PCNA はホモ３量体のリング構造をとって働きますので、ひとつのリング内には３つの被修飾リジン残基が存在します。私たちは、それらの３つのリジン残基が同時に修飾を受けることにより、未知の DNA 損傷トレランスを活性化する引き金となることを見い出しています。損傷トレランスの全体像を理解することにより、それらをターゲットとした抗がん剤の開発など、ゲノムの不安定化を伴う疾患の克服に繋がる研究を展開できると考えています。

1986年東京大学薬学部卒業、1991年同博士課程を哺乳類細胞の DNA 複製機構の研究により修了、以後、理化学研究所基礎科学研究員及び研究員として DNA 修復機構の研究に従事し、大阪大学細胞生体工学センター及び生命機能研究科（改組による）助手及び助教授の期間に損傷乗り越え複製研究に着手した。途中、ピッツバーグ大学がん研究所に短期留学。2010年より現職。モットーと言うほどではありませんが、考えても分からないことはやってみる。

ますたに　ちかひで

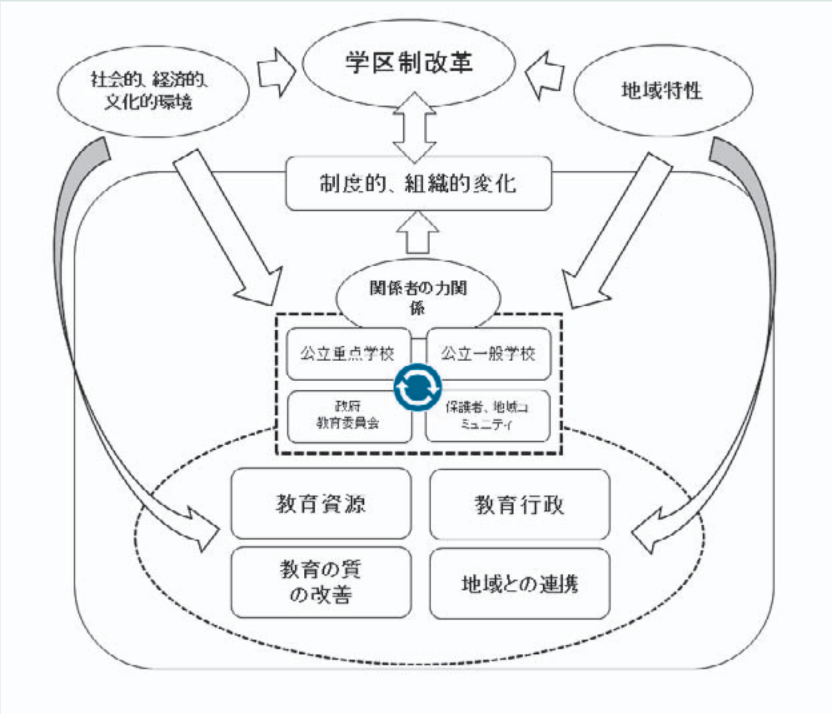
中国都市部における「学区制」政策に関する社会学的分析

大学院国際開発研究科助教
劉　靖

近年都市化によって急速に格差が拡大、再生産されている中国では、多様性がある学校選択制から学区制へと移行しつつあることが注目されます。構造的な不平等が存在している公教育の不平等の実態を改善するために、近年中国の政府は「義務教育均衡発展」政策を打ち出しました。この政策で最も注目されたのは、「教育資源の再配分」による公立学校の均衡発展という点です。これまでのエリート教育重視の影響で、中国では小学校から大学までエリートを育成するための重点学校が一般の学校より重点的に投資を受けてきました。そのために公立学校間の格差（設備、人的資源、財源、人気度、教育の質など）が存在しています。また、学校間の格差は進学に関わる学校や親および子供の間の競争に悪影響を与え、教育格差の再生産が加速化してきました。学校間の格差縮小と公立学校への進学競争の緩和のため、政府は同じ学区に所属する重点学校と一般学校の間の資源を再調整し、教育資源を各公立学校に均衡に配分することを目指す「学区制」改革を推進し始めました。

しかし、不均衡な構造がある「学区」には、様々な階層集団の間の利害関係が形成されてきました。そのため「学区制」改革に対しては、「学区」の中の様々な地位集団の間で利害の「葛藤」があります。公立学校間の格差の再均衡のため、関係者の間での力関係も「学区制」改革の実施によって再構築されます。そのため、公立重点学校、公立一般学校、政府および教育委員会、保護者、コミュニティといった関係者はどのようにこの改革に関わるのか、といった問いに対して、都市部の「学区制」改革の事例を参照し、歴史的、社会的、経済的、文化的、組織的環境、関係者の力関係および地域特性の比較分析を通して、その実態の多様性、複雑さおよび社会関係を解明することは、今私が取り組んでいる研究の焦点です。

本研究の特色は、欧米や日本における学区制の規制緩和や学校選択制の導入に対して、中国都市部における「義務教育均衡発展」および学校選択の規制強化を目指す「学区制」改革を対置させることで、世界の「学区制」改革に対して新たな視点と理解を提示することです。また、本研究の分析結果に基づき、人口減少と格差拡大に直面する日本社会での公立小中学校再編、公立回帰および質の改善による「学校づくり」に提言することは、本研究の日本社会への貢献であると言えます。



「学区制」改革の実施によって、関係者の間での力関係の再構築構成図

平成28年度名古屋大学体育会会長表彰　表彰式

平成28年度名古屋大学体育会会長表彰表彰式が、12月14日（水）に豊田講堂第１会議室において、名古屋大学体育会により挙行されました。

この表彰は、本学体育会に加盟するクラブにおいて、一昨年11月から昨年10月末までに各種競技大会で優秀な成績を収めた個人、団体及びその指導者の栄誉を讃え、その功績を広く顕彰することを目的に、平成元年に創設された制度です。

今年度は、個人７名と８団体が本学体育会会長である松尾総長から表彰され、１年間のめざましい成果が讃えられました。加えて、総長及び國枝理事からは、今冬から来夏にかけて本学主管で開催される全国七大学総合体育大会（通称 七大戦）の総合優勝に向けて、体育会への期待の言葉が述べられました。

なお、受賞した個人及び団体には、副賞として名古屋大学校友会から記念品等が贈呈されました。

平成28年度　名古屋大学体育会会長表彰　受賞者一覧　（表彰対象期間：平成27年11月1日～平成28年10月31日）

個人の部（７名）

	個 人 名	所属学部・学年	所属団体名	表彰要綱該当条項	出場大会名及び成績	
1	二宮　初音	経済・２年	フィギュアスケート部	会長賞（第4条2項2号）	第10回西日本学生フィギュアスケート選手権大会 兼 第89回日本学生氷上競技選手権大会選考会 女子Ｃクラス	１位
2	日下　星野	理・４年	ライフル射撃部	会長賞（第4条2項2号）	第27回西日本学生ライフル射撃選手権大会 50m P60M	優勝
3	上田　敦士	経済・１年	ゴルフ部	会長賞（第4条2項2号）	平成28年度中部学生ゴルフ選手権	優勝
4	尾関　将樹	工・３年	トライアスロン部	会長賞（第4条2項3号）	2016東海・北陸学生トライアスロン選手権 日本学生トライアスロン連合杯　男子総合	第１位
5	桑原　歩美	情報文化・3年	弓道部	会長賞（第4条2項3号）	第51回中日本弓道近的選手権大会 一般女子個人	優勝
6	守法　亮佑	環境・院１年	航空部	会長賞（第4条2項3号）	第35回東海・関西学生グライダー競技会	優勝
7	玉越　直子	理・１年	アーチェリー部	会長賞（第4条2項2号）	2016年度東海学生アーチェリーフィールド選手権大会 リカーブ部門　女子個人	優勝

団体の部（８団体）

	団体名	表彰要綱該当条項	出場大会名及び成績	
1	ボート部	会長賞（第4条2項2号）	第48回中部学生選手権競漕大会　総合	第１位
		会長賞（第4条2項2号）	第48回中部学生選手権競漕大会　男子総合	第１位
		会長賞（第4条2項2号）	第48回中部学生選手権競漕大会　女子総合	第１位
2	フィギュアスケート部	会長賞（第4条2項2号）	第10回西日本学生フィギュアスケート選手権大会　兼 第89回日本学生氷上競技選手権大会選考会　女子Ｃクラス団体	１位
3	航空部	会長賞（第4条2項3号）	第35回東海・関西学生グライダー競技会	優勝
4	アイスホッケー部	会長賞（第4条2項2号）	第24回中部学生アイスホッケー選手権大会	優勝
5	男子ラクロス部	会長賞（第4条2項3号）	第１回あかつきカップ	準優勝
6	ソフトテニス部	会長賞（第4条2項3号）	第55回全国七大学総合体育大会 ソフトテニス競技女子の部　団体戦	優勝（二連覇）
7	馬術部	会長賞（第4条2項3号）	第55回全国七大学総合体育大会　馬術競技	総合優勝
8	ハンドボール部	会長賞（第4条2項3号）	第55回全国七大学総合体育大会　ハンドボール競技	優勝

第4回 ITbM 国際シンポジウムを開催

●トランスフォーマティブ生命分子研究所

第12回平田アワード受賞者エミリー・バルスカス教授による受賞講演

第２回岡崎令治・恒子賞受賞者山下由起子教授による受賞講演

　トランスフォーマティブ生命分子研究所（ITbM）は、12月12日(月)、13日(火)の両日、野依記念学術交流館において、国際シンポジウム4th International Symposium on Transformative Bio-Molecules(ISTbM-4)を開催しました。今回は、動植物生物学、計算科学と合成化学の分野で世界をリードする８名の研究者を招き講演が行われました。

　松尾総長の開会あいさつの後、伊丹 ITbM 拠点長から ITbM の中核をなす研究コンセプト「ミックス」が大きく発展し、融合研究の成果が続々と生まれつつあることが報告されました。

　その後、ケンダール・ハウク カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授（米国）、上川内あづさ理学研究科教授、マリナ・クイモヴァ インペリアル・カレッジ・ロンドン教授（英国）、ランダール・パターソン ハーバード大学医学大学院教授（米国）、山東信介東京大学教授、ピーター・マッコート トロント大学教授（カナダ）、スコット・ミラー イェール大学教授（米国）、ハガン・ベイレイ オックスフォード大学教授（英国）の８名の招待講演者によって、「分子」をキーワードとした世界最先端の研究成果が披露されました。また、ITbM からジェフリー・ボーディ客員教授（ペプチド・タンパク質化学）、土屋雄一朗特任准教授（植物ケミカルバイオロジー）、キャサリン・クラッデン客員教授（合成化学）、鳥居啓子客員教授（植物発生学）によって、独自の研究成果に加え ITbM での生物学と化学の融合研究についての成果が発表されました。

　さらに、有機化学の分野で活躍する若手を表彰する Hirata Award（平田アワード）と、生物学の世界のライジングスターを表彰する Tsuneko & Reiji Okazaki Award（岡崎令治・恒子賞）も併催されました。今年の平田アワードには、化学反応を生物内に組み込み新たな生命機能を生み出す合成生物学分野で世界的に評価の高いエミリー・バルスカス ハーバード大学教授(米国)が、また、岡崎令治・恒子賞には幹細胞の多能性の維持と非対称分裂研究で極めて優れた業績をあげた山下由起子ミシガン大学教授（米国）が選ばれ、記念品の盾がそれぞれ、神奈川大学特別招聘教授である上村大輔名誉教授、岡崎恒子特別教授から手渡されました。

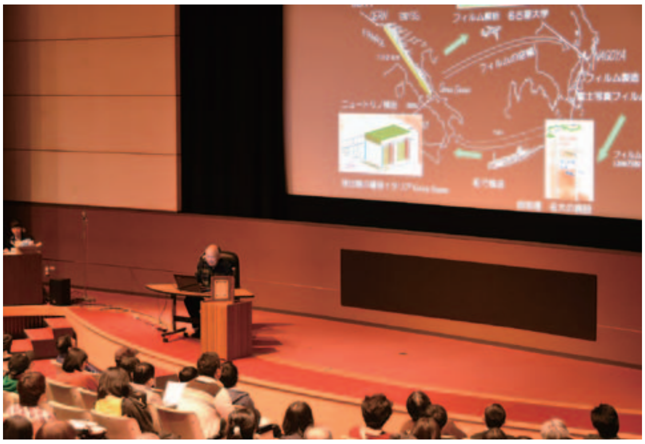
　国内外から参加した300名余りの研究者・学生は、生物学、化学そして計算科学と多岐にわたる講演に真剣に聞き入り、構造生物学、ケミカルバイオロジー、イメージング、機能性分子といった研究成果について、分野の壁を飛び越えて白熱した議論を展開し、活気溢れるシンポジウムとなりました。

国際シンポジウムの集合写真（招待講演者、平田アワード及び
岡崎令治・恒子賞受賞者、上村名誉教授、岡崎特別教授とともに）

第15回坂田・早川記念レクチャーを開催

●大学院理学研究科

大学院理学研究科は、12月17日(土)、名古屋市科学館において、名古屋市科学館共催、素粒子宇宙起源研究機構(KMI)特別共催により、坂田・早川記念レクチャーを開催しました。同レクチャーは、坂田昌一・早川幸男両教授の業績を讃えつつ、21世紀を担う研究者の発掘及び育成を目的として設けられています。



講演会の様子

第15回となる今回は、丹羽公雄名誉教授を講師として招きました。丹羽名誉教授は、世界初のタウニュートリノ反応の検出に成功したDONUT 実験や、ニュートリノ振動により出現するタウニュートリノの検出を行ったOPERA実験を主導するなど、素粒子物理学の発展に多大な貢献をされています。

講演では、タウニュートリノの発見を中心に氏の研究人生を交えながら、素粒子物理学の進展から最新の結果までを語っていただきました。約240名の一般の参加者の方々で会場のサイエンスホールがほぼ埋まる盛況ぶりでした。

また、休憩時間や開場から講演までの時間には、素粒子宇宙物理学専攻の11研究室がポスター等による研究紹介も行いました。

第9回おもしろ科学教室を開催

●大学院工学研究科

大学院工学研究科は、1月9日(月・祝)、IB 電子情報館において、「おもしろ科学教室」を開催しました。この催しは、本学の地域貢献特別支援事業の一環として、青少年の科学技術への理解増進を目的に、他の教育研究機関や学会・協会等とも連携して開催しています。第9回となる今回は、本学を含め、15の機関が協力して実施しました。

理科工作「LED 電子万華鏡」に取り組む参加者ら

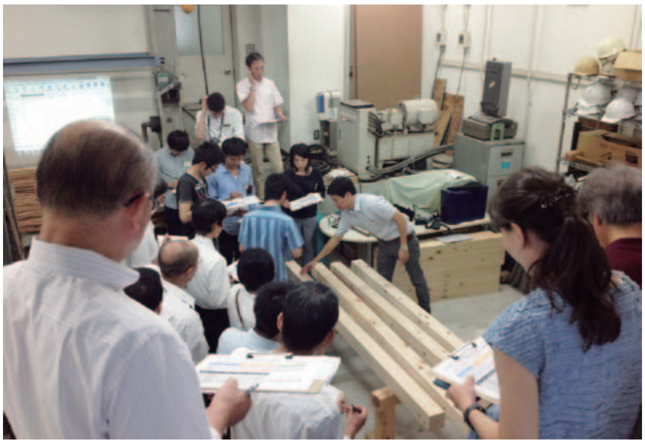
最初に、株式会社デンソーの松ヶ谷和沖氏が「自動運転でクルマをもっと安心・安全なのりものに」と題した講演を行い、交通事故ゼロが目標であることや、自動運転を実現するうえでの技術課題などを解説しました。小学校低学年の児童も多数聴講していましたが、質疑応答では活発に質問するなど、興味深く聞いている様子でした。続いて日本弁理士会東海支部の電子紙芝居「『発明』、『特許』ってなあに？－パン職人レオ君ものがたり－」が上演され、発明保護の重要さや弁理士の役割などを分かり易く解説しました。これらの講演の前後には、各団体のブースを自由に見学することができ、参加者らはLED 信号機やプラズマボールなど、様々な科学技術に関する展示物に興味深そうに触れたり、実演に見入ったりしていました。第2部ではLED 電子万華鏡、風船ロケット、オリジナル魔鏡など、理科の原理を応用した実験工作や、電波を使った鬼ごっこなど、事前に申し込んだテーマに取り組みました。中には少し手間取る児童もいましたが、最後には全員が工作品を完成させ、科学の面白さを堪能した様子でした。

都市の木質化講座を開催

●大学院生命農学研究科

大学院生命農学研究科は、９月17日(土)、10月30日(日)、11月５日(土)、12月17日(土)の４日間、連続講座「森と街を元気に、木で豊かなくらしをつくる WOODist の育成」を開催しました。

第１回は、農学部講義棟において、山崎真理子同研究科准教授が「木の科学～Wood Science & Engineering～」と題して講習と製材の曲げ破壊実験を行い、木材の機械的性質やヤング係数の重要性、グレーディングについて学びました。第２回の「森のいま～Our Forest～」では、近藤　稔同研究科助教、山本一清同研究科准教授、豊田市の川合晃司氏らが講演し、森林の現状と将来、林業・林学の重要性について学んだ他、豊田森林組合等と連携し、豊田森林組合周辺の森林における調査で樹木の過密度を認識しました。第３回の「木の文化と可能性～Timber Culture～」では、株式会社東海木材相互市場大口市場において、株式会社東海木材相互市場の鈴木和雄氏と飯田工業株式会社の井本希孝氏が木材の生産／流通／加工の流れに関する講演を行った後、木材集積場等を見学しました。また、佐々木康壽同研究科教授が都市部の木造建築に関する中央ヨーロッパの事例を紹介しました。第４回は、農学部講義棟において、「これからの森づくり～Woodist makes Woodism～」をテーマに、参加者のブレインストーミングを通じて地域産木材の利用促進に向けた将来展望に関する提案がなされました。これを受ける形で愛知県の鍋田拓哉氏、山本剛久氏から森林資源及び木材利用促進の施策について説明があり、活発な質疑応答がなされました。



建築用製材の強度試験に取り組む受講者（第１回）

東山キャンパスで企画展「戦争と大学 ふたたび」を開催

●附属図書館医学部分館、大学文書資料室

附属図書館医学部分館と大学文書資料室は、11月25日(金)から12月26日(月)までの間、中央図書館２階ビブリオサロンにおいて、企画展「戦争と大学　ふたたび－軍医と銃後－」を開催しました。

この企画展は、本誌第282号の記事で紹介された、附属図書館医学部分館が６月から９月にかけて同館で実施した同名の企画展を、東山キャンパスで開催したものです。平成26年８月の企画展「戦争と大学」は、本学の歴史に即した、専ら満州事変以後の戦争に関する内容でしたが、今回は大学も戦争も近代日本全体を対象としたうえで、軍医と銃後というサブテーマを設定しました。

東山での展示にあたっては、附属図書館医学部分館と大学文書資料室の共催とし、資料室の所蔵史料や作成パネルを増補して展示しました。増補した史料は、軍医になった名古屋大学医学部前身学校の卒業生のもの、パネルは軍医の速成を任務とした名古屋帝国大学附属医学専門部を紹介するもので、これらによって、展示内容が本学の関係者や地域の方々にとってより身近な内容になりました。また、鶴舞に比べて展示スペースをかなり広くとれることを考慮して、「近代日本の軍医とその養成」「戦場と軍医」「戦時下の大学と科学」「銃後の諸相と結末」という４つのコーナーを設けて展示を再構成しました。

鶴舞での展示を含め、この企画展の詳しい内容は、『名古屋大学大学文書資料室紀要』第25号（平成29年３月刊行予定）に展示記録として掲載される予定です。

「戦場と軍医」コーナー

ICCAE 第5回オープンセミナーを開催

●農学国際教育協力研究センター

農学国際教育協力研究センター（ICCAE）は、12月13日(火)、農学部第７講義室において、2016年度第５回オープンセミナーを開催しました。今回のセミナーでは、インドネシア・スリウィジャヤ大学元副総長・同農学部教授であるルジト・A・スウィグニョ博士が、「インドネシアの低生産地域における農業生産性の改善に向けた取り組み」について講演しました。

ルジト教授の講演の様子

インドネシアは人口が２億５千万人を超える大国ですが、農業が主要な産業であり、中小企業への原材料を供給して GDP の15％に貢献し、全労働人口の33.3％を吸収して地方の家計収入の70％を占めています。しかし、インドネシアの農業は年間に10万ヘクタールもの優良水田が他の用途に転用されているという問題を抱えており、問題土壌からなる低生産地域を活用せざるを得ない状況となっています。国全体で生産性の高い水田面積は8600万ヘクタールであるのに対して、低生産地域は３億3400万ヘクタールに及びます。また、インドネシアの低生産地域の要因は、酸性土壌、塩害、洪水、旱魃など様々であり、生産性を高める上ではぞれぞれに異なる取り組みが必要となります。同セミナーでは、低生産性地域の土壌改良に向けた具体的な方策の立案や効果的な実施に向けた課題について議論する機会を提供することができました。

第3回素粒子宇宙起源研究機構国際会議（KMI2017）を開催

●素粒子宇宙起源研究機構

素粒子宇宙起源研究機構は、１月５日(木)から７日(土)の３日間、ES 総合館 ES ホールにおいて、第３回素粒子宇宙起源研究機構国際会議（KMI2017）を開催しました。

同機構は、素粒子･宇宙に関する実験、観測、理論といった異なる専門領域を持つ研究者によって構成され、宇宙や物質の起源を解き明かすための最先端の研究が進められています。

参加者集合写真

同国際会議には、新年早々にも関わらず国内外合わせて139名の研究者(学外35名(うち海外招聘14名)、学内104名)が集まり、益川素粒子宇宙起源研究機構長の開会のあいさつで幕が開きました。機構における最近の成果と、これからの機構の中心的テーマである「暗黒宇宙の解明」に向けた最先端の実験・観測における状況や、次世代の新たな理論及び実験的アプローチに関する報告・提案がなされ、国内外の研究者・学生による活発な議論が行われました。

最後に、小林　誠特別教授が、機構の研究活動に対する講評と期待を述べて、会議を締めくくりました。

また、同国際会議の中で、国内外の著名な研究者からなる国際諮問委員会が開催され、これまでの機構の研究活動における評価や助言がなされ、今後の機構のさらなる発展に向けた重要な指針となりました。

素粒子宇宙起源研究機構は、本学ならではの、より独創的かつ最先端の研究成果を生み出し、かつ世界へアピールするための活動を今後も継続していきます。

名大を表敬訪問された方々［平成28年10月16日～平成29年１月15日］

日付	国／地域	訪問者	目　的
10月24日	ドイツ	JSPS ボンセンター長の来訪	JANET FORUM 打ち合わせのため
10月25日	オーストラリア	日豪大学職員短期交流事業・研修生ほか６名の来訪	表敬訪問
11月11日	タイ	ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校 プラサート・ピンパトムラット学長ほか37名の来訪	表敬訪問、先端科学技術調査訪
11月18日	中国	中国駐日本国大使館科学技術部　阮湘平参事官　他３名の来訪	渡辺理事・天野教授への表敬訪問
11月22日	タイ	タイ王国チュラポーン王女等52名の来訪	チュラポーン王女殿下医科大学と本学医学部との学術交流に関する懇談
11月28日	中国	中国卓越大学連盟（９大学連盟）から11名の来訪	表敬訪問及び日中大学交流についての懇談
12月13日	アメリカ	ノースカロライナ大学チャペルヒル校 ロバート・マイル氏ほか１名の来訪	表敬訪問
12月16日	デンマーク	デンマーク王国駐日大使フレディ・スヴェイネ氏の来訪	表敬訪問及び両国交流についての懇談
12月16日	中国	駐名古屋中華人民共和国総領事館総領事　鄧偉氏ほか２名の来訪	就任挨拶を兼ねた表敬訪問
12月16日	中国	中華人民共和国外国専門家局日本訪問団８名の来訪	表敬訪問、IT・情報分野の教育・研究について懇談
12月19日	中国	鄭州大学副学長　劉　国際氏ほか３名	表敬訪問
12月19日	韓国	浦項工科大学校総長ほか２名の来訪	表敬訪問
１月11日	カナダ	在名古屋カナダ領事館領事 兼 通商代表シェニエ・ラサール氏の来訪	シルク・ドゥ・ソレイユトークイベント出席に伴う表敬訪問

新たに締結した学術交流協定［平成28年10月16日～平成29年１月15日］

大学間学術交流協定

締結日	国／地域	大学／研究機関名
11月８日	ウズベキスタン	サマルカンド国立大学

部局間学術交流協定

締結日	国／地域	大学／研究機関名	部局名
11月４日	中国	中国人民大学外国語学院	国際言語文化研究科
11月９日	オーストラリア	西オーストラリア大学医歯健康学部	医学部

構成員を対象とした研修［平成28年10月16日～平成29年１月15日］

実施日	研修名	目　的	参加人数
10月５日(水) ～28日(金)	名古屋大学職員中期海外研修 (カンボジア)	本学の世界的研究拠点の形成や国際ネットワークの構築を推進するために、本学の海外拠点、本学と協定を結んでいる協定校等において実務研修を実施することにより、職員の実践的な国際対応力の向上を図る	１名
10月７日(金)、 14日(金)	ハラスメント防止研修	ハラスメント防止に必要な知識や上長としてのマネジメントスキルを修得することを目的とする　※	54名
10月23日(日) ～11月６日(日)	名古屋大学職員中期海外研修 (ドイツ)	本学の世界的研究拠点の形成や国際ネットワークの構築を推進するために、本学の海外拠点、本学と協定を結んでいる協定校等において実務研修を実施することにより、職員の実践的な国際対応力の向上を図る	１名
10月27日(木)	第２回 TOEIC IP テスト	特に若手職員を対象に受験の機会を提供することにより、職員が自己の英語能力の実力を知り、その向上に対する自己研鑽を促すことを目的とする	25名
10月28日(金)	医療機器の安全使用のための研修	医療法第６条の12及び医療法施行規則第１条の11の規定に基づき実施し、院内にある医療機器の安全使用の確保を目的としている	247名
11月１日(火)～ ２日(水)、 ４日(金)	平成28年度中期感染対策研修 (院内感染対策講演会)	院内感染対策推進のため	1,350名
11月15日(火)	メンタルヘルス講習会（セルフケア） 【鶴舞地区】	自分の健康は自分で守るというメンタルヘルスのセルフケアの考え方を学び、ストレスへの気づきと対処方法を身につけ、日常生活の実践につなげる	27名
11月15日(火)	全学技術センター (平成28年度技術研鑽プログラム) 「これからの技術職員に求められる情報発信力の養成研修」	教職協働が謳われる中、技術職員にも持てる技術力や成果を伝えるための適切な情報発信力が求められる。そこで、名古屋市立大学芸術工学部教員を講師として招き、グラフィックデザインのテクニックをベースに情報発信力を養成することを目的とした研修を実施した	４名
11月25日(金)	平成28年度後期リスクアセスメント (ヒューマンエラー対策）研修	技術職員の資質向上のため、職員の置かれている環境でのヒューマンエラー発生メカニズム、事例確認及び軽減対策方法を習得することにより、職場でのヒューマンエラーの軽減を図る	15名
11月29日(火)、 30日(水)	平成28年度マネジメント研修	管理職層及び中堅職層の役割を認識し、専門業務以外にも目を向けることにより、組織活性化を目指すとともに、円滑な意思疎通のためのコミュニケーションスキルを習得する	36名
12月２日(金)	第18回教務学生事務担当者実務研修	教務学生事務の実務を担当する職員の資質向上を目指し、教育･学生支援に関する業務の円滑な処理に必要な知識を習得させることにより、事務能率の向上を図る	55名
12月６日(火)	労働関係法セミナー	本学の主に労務･福祉関係業務の担当者が、労働基準法等の関係法令の基礎的な知識を身に付けることを目的とする	55名
12月６日(火)	名古屋大学パートタイム勤務職員等研修	パートタイム勤務職員（契約職員を含む）に対し、大学職員としての心構えを自覚させるとともに、業務遂行上必要な基礎知識の修得及び能力の向上を図る	48名
12月12日(月)～ 14日(水)、 16日(金)	平成28年度後期医療安全･感染対策･個人情報保護研修	良質な医療を提供する体制の確立及び個々の安全に対する意識の向上を図るとともに、院内感染対策や個人情報保護を推進するため	1,511名
12月13日(火)	名古屋大学企画力向上研修	業務上の問題点や改善点についての改善企画から提案に至るまでの方法について学び、職員の企画力及びプレゼンテーション能力の養成を図る	12名
12月21日(水)	メンタルヘルス講習会（セルフケア） 【東山地区】	自分の健康は自分で守るというメンタルヘルスのセルフケアの考え方を学び、ストレスへの気づきと対処方法を身につけ、日常生活の実践につなげる	58名
12月21日(水)	メンタルヘルス講習会（ラインケア） 【東山地区】	ストレス及びメンタルヘルスケアの基礎知識を理解し、ラインケア（上司が部下の心の健康づくり対策のために行う活動）を行うための管理監督者の責任と役割を理解する	19名
１月５日(木)	第３回 TOEIC IP テスト	特に若手職員を対象に受験の機会を提供することにより、職員が自己の英語能力の実力を知り、その向上に対する自己研鑽を促すことを目的とする	91名

※名大トピックス No. 282（11月号）からの追加

平成28年度定年退職教授等の最終講義日程

下記の情報は、２月１日現在のものです。詳細については、問い合わせ先にご確認ください。

所　属	氏　名	月　日	時　間	場　所	講義題目	問い合わせ先
理事	國枝　秀世　理事	３月６日(月)	14:45～15:45	理学南館 坂田・平田ホール	見えないブラックホールを見る	立原研悟理学研究科准教授 052-789-2839
文学研究科	小川　正廣　教授	２月14日(火)	13:00～14:30	文学部　237講義室	西洋古典と現代―ホメロスの逆襲	文系総務課総務グループ （文学担当）052-789-2202
教育発達科学研究科	野口　裕之　教授	実施しない				
法学研究科	紙野　健二　教授	３月11日(土)	14:00～16:00	法学部　第３講義室	法治主義のトリアーデ	稲葉一将法学研究科教授 052-788-6241
理学研究科	神山　　勉　教授	３月６日(月)	11:00～12:00	理学南館 坂田・平田ホール	生体エネルギー変換タンパク質の構造解析	立原研悟理学研究科准教授 052-789-2839
	田原　　譲　教授	３月６日(月)	13:30～14:30	理学南館 坂田・平田ホール	Ｘ線で探る熱い宇宙―中性子星から銀河団まで	立原研悟理学研究科准教授 052-789-2839
	福井　康雄　教授	３月６日(月)	16:00～17:00	理学南館 坂田・平田ホール	宇宙の水素の物語	立原研悟理学研究科准教授 052-789-2839
	松本　邦弘　教授	実施しない				
医学系研究科	伴　信太郎　教授	３月９日(木)	16:00～17:30	基礎研究棟（講義棟） ４階　第４講義室	総合診療と医学教育の道を歩んできて	医学部・医学系研究科総務課 学部事務係　052-744-2774
	小寺　吉衞　教授	３月８日(水)	16:00～17:00	大幸キャンパス 東館４階大講義室	医用放射線画像の評価とその変遷	礒田治夫医学系研究科 医療技術学専攻医用量子科学 講座主任　052-719-3154
工学研究科	堀添　浩俊　教授	実施しない				
	松村　年郎　教授	３月３日(金)	15:00～16:30	IB 電子情報館２階 IB 大講義室	名古屋大学在籍44年―501―	工学部総務課総務係 052-789-3406
生命農学研究科	生源寺眞一　教授	２月17日(金)	13:30～14:30	農学部Ｂ館３階 第12講義室	農業・農政の研究40年を振り返る	農学部庶務係 052-789-5266
多元数理科学研究科	大沢　健夫　教授	３月８日(水)	16:00～17:30	多元数理科学棟 509号室	$\mathbb{C}^n$とL^2の間に	多元数理科学研究科 教育研究支援室　貝塚 052-789-2835
国際言語文化研究科	福田　眞人　教授	２月14日(火)	14:45～16:15	文系総合館 カンファレンスホール	結核と芸術―佳人薄命の系譜	文系総務課総務グループ （国際言語担当） 052-789-5312
	越智　和弘　教授	２月７日(火)	14:45～16:15	文系総合館 カンファレンスホール	ヴィレム・フルッサーが残してくれたもの	文系総務課総務グループ （国際言語担当） 052-789-5312
	飯野　和夫　教授	２月10日(金)	13:00～14:30	文系総合館 カンファレンスホール	フランスと18世紀に学ぶ	文系総務課総務グループ （国際言語担当） 052-789-5312
	河村　雅隆　教授	実施しない				
環境学研究科	田中　重好　教授	３月３日(金)	15:00～16:30	文学部　237教室	共同性、公共性、そして、社会	環境学研究科社会環境学専攻 室井研二准教授 052-789-2273
	清水　裕之　教授	３月３日(金)	15:00～16:30	ES 総合館 ES ホール	研究・実践・コミュニケーション（建築計画研究のジレンマと醍醐味）	環境学研究科都市環境学専攻 高取千佳助教 052-789-3750
	伊藤　義美　教授	３月８日(水)	10:30～12:00	情報文化学部 SIS3	私とパーソン・センタード・アプローチ（PCA）	環境学研究科庶務係 052-789-3454
情報科学研究科	宮尾　　克　教授	実施しない				
創薬科学研究科	赤池　昭紀　教授	２月２日(木)	14:30～16:00	野依記念学術交流館 ２階 カンファレンスホール	神経変性疾患の予防・治療に向けたニューロン死の制御	創薬科学研究科・細胞生理学 研究センター事務室 052-747-6586
未来材料・システム研究所	余語　利信　教授	実施しない				

本学関係の新聞記事掲載一覧［平成28年12月16日～平成29年１月15日］

	記事	月日	新聞等名
1	西山朋子理学研究科准教授のグループは、染色体の構成に重要な役割を果たしているとされるタンパク質「コヒーシン」の働きの一部を解明	12.16（金）	中日（朝刊）
2	植田美那子トランスフォーマティブ生命分子研究所特任講師らの研究グループは、植物の受精卵が細胞分裂を始める際の仕組みの一部を突き止めた	12.16（金） 12.19（月）	中部経済 毎日（夕刊）
3	本学など県内５大学のロゴが描かれた天然水のペットボトルが名古屋駅新幹線ホームなどで大学ごとに１週間ずつ期間を分け販売され、本学は18日まで販売	12.16（金）	中日（朝刊）
4	内田 良教育発達科学研究科准教授は2016年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について「部活動が過酷なものになっていることが調査から明らかになった意義は大きい」と語る	12.16（金）	毎日（朝刊）
5	オープンカレッジ：敵を知り己を知れば百戦危うからず 愛知工業大学教授加藤里美氏本学博士後期課程修了	12.16（金）	中部経済
6	余語利信未来材料・システム研究所教授と林 幸壱朗同助教、丸橋卓磨さん博士前期課程１年生らは抗がん剤などを運び、がん細胞だけを狙い撃ちできる新たなナノ粒子を開発した	12.18（日）	中日（朝刊）
7	角皆 潤環境学研究科教授、中川書子同准教授らのグループが桜島の噴気温度の遠隔測定に成功	12.19（月）	毎日（朝刊） 中部経済
8	笠原次郎工学研究科教授や慶應義塾大学などは、激しい爆発を利用する新しい原理のロケットエンジンを開発した	12.19（月）	日経（朝刊）
9	藤井聡太さん教育学部附属中学校２年生の昇段を祝う会が開かれ「東海地区に一刻も早くタイトルを持ってこられるよう精進したい」と語る	12.19（月）	毎日（朝刊） 他２社
10	本学と日本電信電話株式会社、住重試験検査株式会社は共同で、宇宙から降り注ぐ宇宙線によって引き起こされる電子機器の誤動作を再現する試験方法を確立したと発表	12.20（火）	日刊工業
11	凛としていきる 理系女性の挑戦：若い女性に夢与える存在に 伊藤由佳理多元数理科学研究科准教授	12.20（火）	日刊工業
12	日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生は「定期昇給やベースアップ、一時金、手当など多様な選択肢を組み立てた賃上げを求めていきたい」と語る	12.20（火）	毎日（朝刊）
13	解説スペシャル：指導要領「探求的な学習」拡充へ 思考過程重視 生きる力育む 久野弘幸教育発達科学研究科准教授は「教師が生徒に答えを与える授業では適用しないのは、社会は既に分かっている」と語る	12.20（火）	読売
14	産総研・名大 窒化物半導体先進デバイスオープンイノベーションラボラトリ（GaN-OIL）天野 浩未来材料・システム研究所教授は「OIL は、産総研や企業など、さまざまな立場の専門家と『リンク』ができ、新しいモノを生み出す場になっていくと思います」と語る	12.21（水）	日刊工業
15	医学部附属病院の「明日の医療の質向上をリードする医師養成プログラム」第２期生の最終授業と修了式が20日に行われた	12.21（水）	中日（朝刊）
16	第13回中央日本交流・連携サミット開催：15日 コーディネーターを務めた夏目達也高等教育システム開発部門教授が「この地域を大きく発展させるために、明日の社会を担う若者たちをいかに育てるか熱い思いを語ってほしい」と語る	12.21（水）	中日（朝刊）
17	「都市の木質化国際会議＆フェスティバル」が来年10月28～30日にポートメッセナゴヤなどで開催されることになり、佐々木康壽生命農学研究科教授は「木材利用のあり方をアジアから発信していきたい」と語る	12.21（水）	読売
18	鈴木康弘減災連携研究センター教授は名古屋市防災会議地震災害対策部会が市中心部の３断層ついて「（活断層か）可能性は否定できない」としたことについて「確実に『クロ』の状態ではなく、過剰に心配することはないが、現在の対策に不足がないか、検討は必要だ」と語る	12.22（木）	読売 中日（朝刊）
19	かがやけ☆あいちサスティナ研究所 ミツカン 研究員として活動に携わった山田美佳さん本学学生は「グループで１つのものを作り上げるのは大変だったけど、いい経験になった」と語る	12.22（木）	中日（朝刊）
20	熊本、鳥取 地震の共通点「ひずみ集中帯」で発生 鈴木康弘減災連携研究センター教授は「全国的に活断層の周りを防災推進地域に指定して対策を進めるべきだ」と語る	12.22（木）	中日（夕刊）
21	紙つぶて：針小棒大 株式会社ノリタケカンパニーリミテド会長種村 均氏本学卒業生	12.22（木）	中日（夕刊）
22	本学が南海トラフ地震など大規模災害による経済への影響を最小限に抑えようと愛知県や財界とともに来年７月に産学官による研究事業拠点「あいち・なごや強靭化共創センター（仮称）」を立ち上げる	12.23（金） 12.29（木）	中日（朝刊） 日刊工業 朝日（朝刊）
23	中部の文化 この１年 囲碁・将棋 プロ棋士で四段の藤井聡太さん教育学部附属中学校２年生は板谷一門のホープ	12.23（金）	中日（朝刊）
24	学校法人「清光学園」は岡崎女子大学・女子短期大学の次期学長に同大学教授林 陽子氏本学卒業生を選出	12.23（金）	中日（朝刊）
25	愛・地球博のフレンドシップ事業で、豊明市がブルガリアと交流した際、通訳をしていた同国出身の長谷川スベトラ氏元本学留学生が豊明市長小浮正典氏を表敬訪問した	12.23（金）	中日（朝刊）
26	プロ棋士で四段の藤井聡太さん教育学部附属中学校２年生の公式戦初対局が始まった	12.24（土）	中日（夕刊） 毎日（夕刊）
27	橋爪博司未来社会創造機構特任助教らは幸田町と連携し、大学の低温プラズマ技術を農業に応用する実験が進められていることについて「プラズマ照射によってストレスを感じたイチゴに、ポリフェノールやビタミンＣなどが増えることで、付加価値の高いイチゴができる」と語る	12.25（日）	読売
28	プロ棋士で四段の藤井聡太さん教育学部附属中学校２年生はデビュー戦で勝利したことについて「途中ちょっと苦しくしたと思ったが、最後に何とか勝ちにできた」と語る	12.25（日）	読売 他４社

本学関係の新聞記事掲載一覧［平成28年12月16日～平成29年１月15日］

	記事	月日	新聞等名
29	ひゅーまん愛知：失われた暮らし伝えたい 戦前の豊橋市の街並みを解説した本を出版した豊橋市中央図書館司書 岩瀬彰利氏本学でも学んだ歴史学の博士	12.26（月）	読売
30	来年８月に名古屋で開かれる NIE 全国大会名古屋大会のシンポジウムに天野 浩未来材料･システム研究所教授が登壇する	12.27（火）	中日（朝刊）
31	名古屋大学消費生活協同組合は「単位」の二文字が浮き彫りになった「単位チョコ」の発売を開始	12.27（火） 1. 1（日） 1.12（木）	中日（朝刊） 日刊工業 読売
32	高校生 eye: 世界一周し夢広がった 吉野裕斗さん教育学部附属高等学校３年生	12.27（火）	中日（朝刊）
33	医学部附属病院で、2019年春に名古屋で開かれる第30回日本医学会総会のシンボルマーク作品の表彰式があり、髙橋雅英医学系研究科教授が最優秀賞者へ表彰状を贈呈	12.28（水）	中日（朝刊）
34	本学発ベンチャー株式会社ティアフォーが自動運転技術などの開発に取り組む大学生らの起業を支援	12.29（木）	日刊工業
35	日本溶接協会 2017年度の「次世代を担う研究者助成事業」助成対象者：判治 剛工学研究科准教授	12.30（金）	日刊工業
36	安倍政権４年 本紙と言論 NPO 実績評価 評価に協力いただいた方々 生源寺眞一生命農学研究科教授	12.30（金）	毎日（朝刊）
37	天野 浩未来材料･システム研究所教授が進める「次世代半導体」の実用化に向け、本学を中心とした共同事業体が2017年度をめどに新法人設立を検討していることが分かった	12.31（土） 1. 3（火）	読売 読売
38	本学が女子学生だけを対象にした給付型奨学金制度を導入することが分かった	1. 1（日）	中日（朝刊）
39	AI はがん名医 髙橋 隆医学系研究科教授は「大量の情報をコンピューターで統合的に分析することで、個別医療への道が開け、思いがけない創薬に結びつくこともあるだろう」と語る	1. 1（日）	中日（朝刊）
40	日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生は2017年の世界経済について米国のトランプ新政権が打ち出す減税、インフラ投資、規制緩和といった「産業促進的な政策への期待感から円安・株高が進行する動きを歓迎する」と語る	1. 1（日） 1. 4（水）	日刊工業 中部経済
41	なごや考②：魅力 競争力に直結 野依良治本学特別教授 文化の発展 置き去りに	1. 3（火）	読売
42	医学部附属病院が心臓の脳死移植をできる医療施設として認定され、４月から11歳以上の患者受け入れを開始することが分かった	1. 3（火）	中日（朝刊）
43	あしたを拓く科学の匠①：「過疎地の高齢者へ移動の足」自動運転 街へ 加藤真平本学客員教授は「実用化のためには、かさばり、電気を食うパソコンを積んでいるようではダメ」と語る	1. 3（火）	読売
44	松尾総長など愛知県４大学のトップと愛知県が３月までに NPO 法人「臓器提供推進あいちの会」を設立する	1. 4（水）	中日（朝刊）
45	あしたを拓く科学の匠②：「ドラえもんのように感情豊かに」音声合成 語る亡父 戸田智基情報基盤センター教授がより「人の声」に近づける	1. 4（水）	読売
46	減災館が東海３県で防災について学べる施設として紹介される	1. 5（木）	読売
47	本学とトヨタ自動車株式会社の COI プログラムが紹介される	1. 5（木）	日刊工業
48	本学・カナダ領事館 連携企画 トークイベント「シルク・ドゥ・ソレイユの魅力」開催：11日	1. 5（木）	中日（朝刊）
49	展望 日本経済2017: 日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生が今年の日本経済について語る	1. 5（木）	毎日（朝刊）
50	2017展望と戦略 中部経済同友会代表筆頭幹事 株式会社ノリタケカンパニーリミテド会長種村 均氏本学卒業生	1. 5（木）	中部経済
51	中村和弘医学系研究科教授らのグループは飢餓を生き延びるための脳の仕組みを解明	1. 6（金）	中日（朝刊）
52	あしたを拓く科学の匠④：クフ王の謎「透視」森島邦博未来材料・システム研究所特任助教は「スキャンピラミッド」の一員として研究に参加 河江肖剰文学研究科研究員は「ピラミッドそのもののデータが少なく、使われた石材の数や、石の積み方なども解明されないままになっています」と語る	1. 6（金）	読売
53	自動運転はどこまで進むのか 山間地 高齢者の足に 本学や愛知県が完全自動運転の「無人タクシー」実現に向けた実験を行っている	1. 6（金）	読売
54	馬場嘉信工学研究科教授と湯川 博先端ナノバイオデバイス研究センター特任講師らの研究グループは、量子ドットを応用し、iPS 細胞などの幹細胞を移植後に光らせる技術を開発	1. 7（土） 1.12（木）	中日（朝刊） 日刊工業
55	岩瀬 智さん本学３年生ら瀬戸市在住の学生３人が、焼き物が縁で姉妹都市提携を結んでいるフランス･リモージュ市で音楽交流した	1. 7（土）	中日（朝刊）
56	坪木和久宇宙地球環境研究所教授らの研究グループは、今年から2020年まで、航空機を使った台風の直接観測に着手することを決めた	1. 8（日）	読売
57	古川為三郎サイエンス講演会「世界を照らす LED」開催：２月18日 天野 浩未来材料・システム研究所教授が講演	1. 8（日）	中日（朝刊）
58	病院の実力：血液がん 医学部附属病院の実績が取り上げられる	1. 8（日）	読売
59	新成人 政治へ注文 多嶋俊貴さん工学部２年生は「揚げ足取りばかりが目立つ。決まったことには建設的に協力するべきだ」と語る	1. 9（月）	読売
60	おもしろ科学教室開催：９日 本学で行われた	1.10（火）	中日（朝刊）
61	医学部附属病院と協力し、名古屋共立病院が２月に専門の「振戦外来（仮称）」を新設することが分かった	1.10（火）	中日（朝刊）

本学関係の新聞記事掲載一覧［平成28年12月16日～平成29年１月15日］

	記事	月日	新聞等名
62	竹中康司工学研究科教授らのグループは、温めると縮む新材料を発見	1.11（水）	中日（朝刊） 朝日（朝刊）
63	Culture：棋界の星10代の新年対談（上）プロ棋士で四段の藤井聡太さん教育学部附属中学校２年生	1.11（水）	中日（朝刊）
64	本学や愛知県と共同で株式会社槌屋が圧力を検知できるパジャマや車いすを開発	1.12（木）	中日（朝刊）
65	本学・カナダ領事館 連携企画 トークイベント「シルク・ドゥ・ソレイユの魅力」開催：11日 豊田講堂で開かれた	1.12（木）	中日（朝刊）
66	本学など東海地区の大学が参加し、株式会社三菱東京 UFJ 銀行は、今年の５～６月頃に大学の技術を企業に紹介する技術説明会を開催する	1.12（木）	日刊工業 他２社
67	第14回キャンパスベンチャーグランプリ中部：大賞 新居 舜さん本学大学院生、鈴木雄也さん本学学生、特別賞名古屋産業人クラブ会長賞 三野稜太さん本学学生、大越拓実さん本学学生	1.12（木）	日刊工業
68	Culture: 棋界の星10代の新年対談（下）プロ棋士で四段の藤井聡太さん教育学部附属中学校２年生	1.12（木）	中日（朝刊）
69	名大サイエンスカフェ「“藻類でバイオ燃料をつくるはなし”はどこまで進んだか」開催：25日 小俣達男生命農学研究科教授が講演	1.13（金）	毎日（朝刊）
70	チャリティー講演会「世界の中の日本人～綿から見る資本主義とその未来～」開催：22日 池上 彰氏が講演 豊田講堂で開かれる	1.13（金）	毎日（朝刊）
71	プロ棋士で四段の藤井聡太さん教育学部附属中学校２年生と62歳差で対戦した加藤一二三・九段が公式戦出場の最高齢記録を77歳11日に更新した	1.12（木） 1.13（金）	中日（夕刊） 中日（朝刊）
72	博士課程教育リーディングプログラム「PhD プロフェッショナル登龍門」第３回グローバル・ビジネス講座「フロンティア・アジアにおける金融ビジネスの最前線」開催：24日	1.14（土）	岐阜新聞
73	平成29年度大学入試センター試験が本学でも行われた	1.14（土） 1.15（日）	日経（夕刊） 他３社 朝日（朝刊） 他３社
74	かがくアゴラ：人の脳、ヘビの脅威で発達 ネコやトリの画像よりヘビを素早く見分ける能力がある 川合伸幸情報科学研究科准教授	1.15（日）	日経（朝刊）
75	グローバル愛ʻｓ：コマッタ 誤解を招く TV 番組 野外民俗博物館リトルワールド学芸員ソロンガ氏本学元研究生	1.15（日）	中日（朝刊）
76	先端人：新たな粒子発見めざす 中浜 優現象解析研究センター准教授	1.15（日）	朝日（朝刊）

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等	内容	
２月10日（金）～３月24日（金） 場　　所：博物館野外観察園 　　　　　セミナーハウス２階 時　　間：10:00～16:00 休 館 日：土・日・祝日 入 場 料：無料 ［問い合わせ先］ 博物館事務室　052-789-5767	**博物館野外観察園セミナーハウスサテライト展示** **「博物館友の会写真サークル 写真展」**	
２月20日（月） 場　　所：野依記念学術交流館、 　　　　　豊田講堂前広場 時　　間：13:00～17:30 対　　象：小学生以上、一般 参 加 費：無料 ［問い合わせ先］ 工学研究科 教授　原　進　052-789-4416	**テクノシンポジウム名大** **「マルチコプター2.0時代へ『空の産業革命』を迎えて」** 内　　容：講演、ドローンデモ飛行	

開催月日・場所・問い合わせ先等　　内容

２月21日（火）
場　　所：減災館１階減災ホール
時　　間：18:00～19:30
定　　員：100名
対　　象：一般
参 加 費：無料

［問い合わせ先］
減災連携研究センター　052-789-3468

第128回防災アカデミー

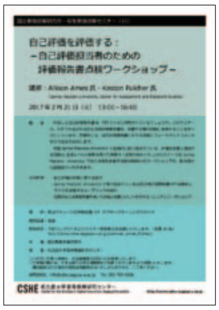
講演題目：「災害廃棄物対応を考える」
講 演 者：平山修久（減災連携研究センター准教授）

２月21日（火）
場　　所：文系総合館５階
　　　　　アクティブラーニングスタジオ
時　　間：13:00～16:00
対　　象：一般

［問い合わせ先］
高等教育研究センター
准教授　中島英博　052-789-5692

国立教育政策研究所－高等教育政策セミナー（11）

講演題目：「自己評価を評価する
　　　　　－自己評価担当者のための評価報告書点検ワークショップ－」
講 演 者：Allison Ames 氏、Keston Fulcher 氏
　　　　　（ジェームズ・マディソン大学）
内　　容：大学で作成される自己点検評価報告書を改善や次期の計画に活用することをテーマに、自己評価報告書に対する評価とフィードバックコメントを行う技法を紹介する（使用言語は英語）



２月22日（水）
場　　所：博物館２階展示室
時　　間：13:30～15:00

［問い合わせ先］
博物館事務室　052-789-5767

博物館企画展関連ボタニカルアート実演「植物を記録する」第２回

講　　師：東海林富子氏（植物画家）

２月24日（金）
場　　所：理学南館１階坂田・平田ホール
時　　間：10:00～16:00
定　　員：250名
対　　象：一般、産学官連携事業に係る
　　　　　企業、行政、大学関係者
参 加 費：無料

［問い合わせ先］
学術研究・産学官連携推進本部
COI 推進ユニット　052-788-6056

平成28年度名古屋 COI 拠点成果発表会及び公開シンポジウム「未来のクルマ×人×社会を創る」

内　　容：研究成果紹介講演、ポスターセッション（成果発表会）、
　　　　　パネルディスカッション（公開シンポジウム）

２月28日（火）
場　　所：情報基盤センター４階演習室
時　　間：13:00～14:30
定　　員：40名
対　　象：一般
参 加 費：無料

［問い合わせ先］
情報推進部情報推進課　052-789-4352

平成28年度第11回 情報連携統括本部公開講演会・研究会

講演題目：「MOOC について（仮題）」
講 演 者：戸田智基（情報基盤センター教授）

３月２日（木）
場　　所：野依記念学術交流館
時　　間：13:00～18:00
対　　象：学生、一般
参 加 費：無料（意見交換会は2,000円）

［問い合わせ先］
シンクロトロン光研究センター
052-747-6562

第６回シンクロトロン光研究センターシンポジウム

内　　容：研究成果や光源加速器・ビームライン開発に関するトピックを紹介し、放射光を利用した新たな研究の可能性や有効性について議論する

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等	内容	
3月14日(火)～7月8日(土) 場　　所：博物館２階展示室 時　　間：10:00～16:00 休 館 日：日・月曜日 　　　　（６月11日臨時開館） 入 場 料：無料 ［問い合わせ先］ 博物館事務室　052-789-5767	**第23回博物館特別展** **「球状コンクリーションの謎** **ー化石永久保存のメカニズム」** 内　　容：日本や世界各地の球状コンクリーションとともにその研究の最前線について紹介する	
３月25日(土) 場　　所：博物館２階展示室 時　　間：14:00～15:00 定　　員：200名（立ち見あり） 参 加 費：無料 ［問い合わせ先］ 博物館事務室　052-789-5767	**博物館コンサート NUMCo** **「アンデス音楽への旅ー白い大地・風紡ぐ歌」** 演奏曲目：「コンドルは飛んでいく」、「花まつり」、他 出　　演：ティエラブランカ	

表紙サークル紹介

表紙
練習風景
（フライングディスク部）
（平成28年11月18日）

フライングディスク部

私たちフライングディスク部は、フライングディスクを用いる競技のひとつであるアルティメットを行っています。アルティメットは40年以上前にアメリカで誕生し、ディスクのスロー技術、走力、跳躍力などあらゆる身体能力が必要なスポーツです。私たちは、サークルとして創設され８年が経ち、今年度から正式に名古屋大学体育会の部活動となりました。毎年６月、９月、11月にそれぞれ行われる全日本大会でより上位に輝けるよう、日々練習を行っています。

名大トピックス No.285　平成29年２月15日発行
編集・発行／名古屋大学総務部広報渉外課
本誌に関するご意見、ご要望、受賞の掲載、記事の掲載などは広報渉外課にお寄せください。
名古屋市千種区不老町（〒464-8601）　**TEL** 052-789-2016　**FAX** 052-788-6272　**E-mail** kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ（http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/public-relations/publication/index.html）でもご覧いただけます。

ちょっと名大史　BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

178　環境医学研究所 ― 附置研究所の歴史① ―

国立大学法人において、学部・研究科等と並ぶ教育研究上の基本組織である附置研究所は、現在、70を超える研究所が附置されており、名大にはそのうちの３つの附置研究所があります。これから３回にわたって、これらの歴史をひもといてみたいと思います。

環境医学研究所は、名大の附置研究所の中で最も古い歴史を持っています。設置は1946（昭和21）年で、名古屋帝国大学の時代です。ただし、その前史として、1943年に名帝大に設置された航空医学研究所があります。

敗戦後、GHQ は日本の非軍事化のため、航空機に関する教育研究の全面禁止を指示しました。渋沢元治総長は、航空医学研究所を存続させる方法に苦心し、縮小改組することで文部省の許可を得ました。ただ実際には、航空医学研究所を1946年１月10日に廃止した後、同年３月30日に環境医学研究所を新設する形がとられました。

環境医学研究所は、設置時は地理疾病学方面（のち神経・感覚）、食養学方面（のち代謝・内分泌）、気象医学方面（のち呼吸・循環）、職業性疾患学方面（のち病理・胎生）の４部門でスタートしました。その後、1959年度に第５部門航空医学方面（のち航空医学）が、1967年度には第６部門航空心理が新設され、航空関係の研究が復活しました。1970年代後半からは宇宙医学の研究に力を入れるようになり、1991（平成３）年には附属宇宙医学実験センター（～2005年度）が設置されました。研究組織は、６部門制が長く続きましたが、1993年に３つの大部門に改組されました。

2004年の名大法人化後、宇宙医学に代表される特殊環境下の健康科学から、近未来がもたらす健康障害のメカニズム解明と予防法開発へと主要なミッションを移行させました。2006年には、２つの研究部門（ストレス受容・応答、生体適応・防御）への改組と、附属近未来環境シミュレーションセンター（2015年に附属次世代創薬研究センターに改組）設置という大きな組織改編が行われました。

1	2	4
3	5	

1　設置当初は名古屋市東区西二葉町（現在の東区白壁、県立明和高校のあたり）にあった航空医学研究所の門標。まもなく東山に移転したが、空襲で施設の約20％を焼失した。
2　ちょうど50年前の1967年１月まで使われていた環境医学研究所の校舎（写真は移転後に撮影）。場所は、現在のトランスフォーマティブ生命分子研究所のあたり。左上端に見えるのは工学部５号館。
3　現在の場所に新築移転（1967年１月に移転完了）した頃の環境医学研究所とその周囲の写真（『名古屋大学概要』1967年より）。
4　1979年に環境医学研究所が導入した、低圧低温環境シミュレーター（写真の撮影は1989年）。
5　現在の環境医学研究所とその周囲の写真（2015年10月）。1979年に南館（この写真では木々で見えづらい）が、1994年に新実験棟（北館）が増築された。

名古屋大学基金
名古屋大学基金へのご寄附をお願い申し上げます。この基金は、平成18年3月に創設され、学生育英事業、教育・研究環境整備事業、国際交流事業などの充実のために活用されます。ご寄附のお申し込み、お問い合わせは広報渉外課（基金事務局）あて（電話052-789-4993, 2011、Eメール kikin@adm.nagoya-u.ac.jp）にお願いいたします。